

---

# 2025 年度 事業報告書

---

特定非営利活動法人  
アントレプレナーシッ  
プ開発センター

---

〒604-0866  
京都市中京区西方寺町 160-2  
船越メディカルビル 3F  
TEL:075-468-8907 FAX:075-468-8908

---

アントレプレナーシップ開発センターが目指すもの:

# アントレプレナーシップ溢れる人材育成と社会の実現

## 目次

はじめに .....	1
2025 年度 事業概要 SUMMARY.....	2
2025 年度 活動報告 ACTIVITY REPORT.....	3
2025 年度 決算報告 FINANCIAL REPORT .....	16

## はじめに

皆さまのご支援のおかげをもちまして、2025 年度を無事終えることができ、ここに事業報告を申し上げます。

まず、小中学生を対象とした事業「ジュニアリーダーズクラブ for Social Action」では、春に「京の不思議地名かるた」が完成し、夏の祭で地域の方々に遊んでいただいたほか、秋には新聞記事で紹介されたことから、多くの注文をいただきました。また、障害のある方の気持ちを理解してもらいたいとの思いから、絵本『わたしにもできること』を制作し、Amazon にて販売しております。4 回目となる清掃活動「ハロウィンチャレンジ～ごみ拾い名人は誰だ!？」は、多くの企業に協賛いただき、参加者に楽しんでもらえる活動になりました。今年度で6回目になる「Kyoto アントレプレナーチャレンジ」においても、小中学生の生き生きとした活躍が見られました。「真冬の地蔵盆開催」「古材を活用したものづくり」「アレルギー対応店舗を紹介するグルメマップの作製」「文化財保護のための寄付プロジェクト」「亀岡特産の牛乳を使ったプリンの販売」と、いずれも子供ならではの視点から地域に貢献する取り組みとなりました。経費を捻出するために協賛を募ったり、物品販売を行ったりなど、大いにアントレプレナーシップを発揮していました。保護者や指導者の方々からは、約 7 カ月にわたる活動の過程で、子供たちが大きく成長したとの声が寄せられています。

2004 年から続けています高校生の国際競技は、昨年 5 月の世界大会「Global Youth Entrepreneurship Challenge」には、28 カ国から 430 チーム(2,651 人)が参加し、1 次選考を経て 55 チームが決勝に進みました。優勝はシンガポールの Raffles Institution のチーム、準優勝は台湾の Taipei American School チーム、特別賞はウクライナの合同チームがそれぞれ受賞しました。本年 3 月 29 日に開催した国内予選「Global Enterprise Challenge」には、54 校から 73 チーム(427 人)がエントリーし、3 チームが世界大会への出場権を獲得し、6 月に挑戦予定です。

第 25 回の開催となりました起業教育の実践見本市「ユースエンタプライズトレードフェア」では、通常の出展や発表を通じた交流に加え、過去の出展者を招き、「アントレプレナーシップはなぜ大切か」と題したユースセッションを実施しました。起業して活躍する先輩方の体験談を聞くなどして、若いうちの学習経験の意義について考える貴重な機会となりました。

国際的影響の大きい紛争が顕在化・長期化し、それと並行して民主主義への圧力や後退が見られる中、社会より良く変革していくための倫理観あるアントレプレナーシップの必要性は一層高まっています。皆さまには、その実現を共に歩む応援団として、引き続き当センターの活動にご支援を賜りますよう、何卒よろしく願いいたします。

令和 8 年 5 月末日

特定非営利活動法人アントレプレナーシップ開発センター  
理事長 原田紀久子

## 2025 年度 事業概要

## Summary

事業内容	対象等
<b>1.能力開発のための講座などの学習機会の提供</b>	
<b>【ジュニアリーダーズクラブ for Social Action】</b> 自分たちの興味あることで、社会に貢献できるような事業を考え実践するなかで、リーダーとしての資質を育成する講座です。2025 年度は「京の不思議地名かるた」を商品化し、自分たちの企画した夏まつりで遊んでもらったり、トレードフェアで販売したりしました。また、秋の清掃活動「ハロウィンチャレンジ」も継続開催し、障害について理解できる絵本は電子版と紙版の両方をAmazonで販売しています。 助成：一般社団法人白珪社	対象：小学 5 年～中学生 日時：毎月第 1, 3 土曜日 午前 9:30-11:30 とイベント日 場所：寺町夷川北西角ヒトミビル2F 会議室 他 参加者：延べ約 500 人
<b>【Kyoto アントレプレナーチャレンジ】</b> 小・中学生対象の事業アイデアコンテスト。採択事業には、その実現に向けて助言や経費的な支援をし、最後に優秀な取り組みを表彰するもの。今年は、5 つの事業提案を採択し、7 月末～3 月初旬の間に、全てのチームが提案事業を実現しました。 補助：京都府「起業するなら京都・プロジェクト」起業体験推進補助事業 協賛：有限責任あずさ監査法人京都事務所、一般財団法人三洋化成社会貢献財団、株式会社 SCREEN ホールディングス、日本新薬株式会社、株式会社たけびし	対象：京都府内の全小・中学生 参加者：応募 15 プロジェクト・採択 5 事業への参加者約 750 人
<b>2.普及促進のためのイベント・セミナーなどの企画・運営</b>	
<b>【国内予選 Global Enterprise Challenge (GEC) / 世界大会 Global Youth Entrepreneurship Challenge (GYEC)】</b> 高校生対象の 12 時間のオンラインでのビジネスアイデアの国際競技。国内予選(他国は世界大会の 1 次予選)を勝ち抜いたチームが決勝に進出します。 協賛：有限責任あずさ監査法人京都事務所、京都外国語大学、株式会社島津製作所、株式会社GSユアサ、公益財団法人日新電機グループ社会貢献基金、ニチコン株式会社、日東薬品工業ホールディングス株式会社、株式会社フューチャースピリッツ、株式会社堀場製作所、村田機械株式会社 協力：京都技術士会	対象：高校生 日時：世界大会 5/17-18 国内予選 3/29 参加者：世界大会：28 カ国から 430 チーム(約 2651 人)、国内予選：54 校 73 チーム(427 人)
<b>【ユースエンタプライズ トレードフェア】</b> 地域と連携した起業教育の実践活動を行う小学生～大学生が一堂に会して出展・交流する成果発表会。優秀な取り組みを表彰。今年も京都大学での開催。 協賛：一般社団法人イシダ三方良しの会、株式会社エスユーエス、株式会社エフタイム、京都信用金庫、株式会社島津製作所、株式会社 SCREEN ホールディングス、株式会社井筒ハツ橋本舗、有限会社 Ek(エック)、オムロンヘルスケア株式会社、株式会社つなぐ制作所、株式会社土井志ば漬本舗、よーじやグループ	対象：小学生～大学生 日時：11/30(日) 場所：京都大学百周年時計台記念館 参加者：約 350 名
<b>3.実践を後押しするための教材・教育プログラムの提供や指導者育成</b>	
<b>【Youth Enterprise】</b> 起業家教育の活動を発信・交流できるオンラインの教育プログラムの提供。	対象：小学生～大学生 参加者：約 1000 人
<b>【アントレプレナーシップ教育の指導者研修】</b> アントレプレナーシップを推進したい教育指導者の育成講座。	対象：大人 参加者：約 100 人
<b>4.事業理解を進めるための調査・研究・情報発信</b>	
HP や月一回のメールマガジン、SNS 等によるセンター活動の報告・案内を行った。	随時、メールマガジンは毎月 25 日発行
<b>5.その他 この法人の目的を達成するために必要な事業</b>	
委員や取材対応などに加えて、2025 年 11 月末に「探究時代のアントレプレナーシップ教育」という先生や行政の担当者向けの書籍を出版しました。	随時

## 1. 能力開発のための研修・講義・講座の提供

### ▶ ジュニアリーダーズクラブ for Social Action

参加者：小学生 5 年～中学生

活動日：第 1・第 3 土曜日 9:30-11:30 活動場所：寺町夷川北西角ヒトミビル2F 会議室他

主催：特定非営利活動法人アントレプレナーシップ開発センター

助成：一般社団法人白珪社

後援：京都市教育委員会

協賛：一般社団法人イシダ三方良しの会、株式会社タカノ、一保堂茶舗、京あめ処豊松堂、亀屋良永、Zero Waste Kyoto、とり市老舗、二條若狭屋寺町店、村上開新堂、豆政、笑まる

本事業では、子供達が身近な社会問題について考え、その解決に貢献できる事業を提案し、実際に取り組むことで、リーダーとしての資質を伸ばすことを目的としています。2025 年度は、参加する子供たちからいくつか出た事業提案のうち、最終的に以下の活動を実施することになり、全て実現することができました。

- ① バリアフリードラマの動画と絵本の作成
- ② 「京の不思議地名かるた」の商品化
- ③ 「遊んで知ろう京のヒミツ～こども夏まつり～」の開催(8 月 3 日)
- ④ 「ハロウィンチャレンジ～ゴミ拾い名人は誰だ？」の開催(11 月 2 日)
- ⑤ 京都大学での起業実践の見本市「ユースエンタプライズトレードフェア」に出展 (11 月 30 日)

バリアフリードラマの絵本は、講師の方に指導いただき Gemini、Canva、ChatGPT などを使って絵の部分を作成することになりましたが、思うように AI では画像を生成することができず大変でした。その中で、AI に対してどのようにコマンドを出す必要があるか、AI ではあいまいな色の指定や左右などの位置が明確でないことなどを学習しました。また、「京の不思議地名かるた」は、印刷後にミスが見つかって修正することになったり、新聞記事で紹介いただいたことから問い合わせへの電話対応が大変だったりしましたが、子供たちにとって誇れる商品ができたことが何よりでした。また、夏祭りやハロウィンチャレンジの開催では、集客や参加者への景品の協賛依頼なども子供たちが主体的に取り組み、多くの人に集まっていたいただき、楽しく交流していただく機会となりました。これらの活動を通じて、担当した役割を担う責任感やリーダーシップを培い、子供たちが成長する姿をみることができました。



## ➤ Kyoto アントレプレナーチャレンジ（小中学生対象）

対象者：京都府内の小・中学生

公募期間：2025/5月～7/9

審査：1次書類審査結果発表：7/15 2次審査&研修：7/27 結果発表 8/5

活動期間：8月～2月末日（事業発表会 2026/3/1）

主催：特定非営利活動法人アントレプレナーシップ開発センター

後援：京都府、京都府教育委員会、京都市教育委員会

補助：令和7年度京都府「起業するなら京都・プロジェクト」起業体験推進補助事業

協賛：有限責任あずさ監査法人京都事務所、三洋化成社会貢献財団、株式会社 SCREEN ホールディングス、日本新薬株式会社、株式会社たけびし

本事業は、京都府内の小・中学生を対象に、「京都の強みを活かしてこんなことしたい！」「自分達の身近な問題をこんなふうに解決したい！」という事業アイデアを募り、その実現を応援することで、より良い京都を創っていく担い手に必要なアントレプレナーシップを培ってもらうことを目的としたものです。

2025年度は、15(35名)の応募があり、1次の書類選考にて選ばれた7つの事業の提案者は、7月27日の2次選考を兼ねた研修会に参加しました。審査の結果、5つのアイデアが採択され、提案者は毎月2回のオンライン会議や個別の相談などを通じて専門的な助言や指導を得て、企画内容をまとめ、協力者の確保や収支計画の立案、広報資料作成、集客など、新しい事業を起こすために必要な一連のプロセスを学び実践していきました。

最終的に、5つ全てのプロジェクトが事業を完了し、3月1日に、京都経済センターにて成果発表を行い、以下の2チームに賞が授与されました。

- 知事賞：『REVIVAL 地藏盆 in Shimogamo』（京都市立下鴨中学校 2年）
- アントレプレナー大賞：『100年前の素材に100年後の価値を』（長岡京市立長岡第四中学校 2年・長岡市立長岡第五小学校 5年）

入賞者のコメントや参加者・保護者のアンケートから、Kyoto アントレプレナーチャレンジに参加して、提案アイデアを実現することの大変さと・達成した時の充実感が見てとれました。参加者は、本事業を通じて、自分がやりたい事を形にするプロセスの中で、アントレプレナーシップを培い、この経験が、将来の自分の職業を考えたり、仕事を通じて社会に貢献する力をつけたりするのに役立つと考えています。リーダーを担った子は、小中学生ながら仲間と時間調整し、当センターの担当者や企業などと連絡をとりあったり、助言をもらって活動に活かしたりと、大変だったと思いますが、その分大きく成長しました。

一方で、このような活動を進めて行く上で、一番重要なのが保護者の理解です。「子供たちだけでは難しいだろう」と、ついつい意見・指示をし、子供にできることでも待てずにやっけてしまいがちです。子供のプロジェクトが大人のプロジェクトになってしまうのです。それが、子供が地域の人から直接学んだり、失敗したりする機会を奪い、同時に、他の大人と意見が異なるときに、どちらに従ったらよいかの迷いにつながります。このような活動が成果を上げるには、保護者が“そっと見守る”という立場を貫き、子供がわからないことを他の大人から学んでくるように奨励することです。今後、本事業でも、研修会で保護者の理解を深める工夫を強化したいと考えています。また、本事業が持続可能なものになるように、協賛企業などの支援者を増やしていくことも不可欠です。



## <採択事業紹介>

(QRコードから各自の事業内容をご覧ください)

1	<p>『みんなが安心!舞鶴アレルギー対応グルメマップ』(舞鶴市立中筋小学校 6年2人)</p> 	<p>アレルギーのある友人と一緒に外食した際に、なかなか入れる店がなくて苦労した経験から、舞鶴でアレルギー対応をしている店を調べてマップを作製し、紹介店舗から協賛を得て5000部を印刷。完成地図は、市内の小中学校や観光協会などで配布。裏面には、アレルギーについてや、小規模店でもできるアレルギー対応のヒントなどを紹介。</p>  
2	<p>『Kameoka Sweets』(亀岡市立亀岡川東学園 6年3人)</p> 	<p>亀岡の特産物を使った菓子を製造販売することで、亀岡の美味しい素材や亀岡の魅力を知ってもらおうきっかけにしたいと、自分たちの地域にある川東牧場の牛乳(京都農協牛乳として販売)を使った「かめまるプリン」を考案。試作を重ねて商品を完成させ、亀岡の洋菓子店の協力を得て、2月22日に亀岡駅の観光案内所の物産店かめまるマートで200個完売。</p> 
3	<p>『五重塔るねーど〜美味しい寄付プロジェクト』(立命館宇治中学校 1年他5人)</p> 	<p>小学生の時に文化遺産の見学で、庭園などの維持管理が大変であることを知り、自分たちでも何かしたいと、五重塔に見立てたトルネードというジャガイモの揚げ物を販売することで売上から得た利益を寄付するプロジェクトを企画。協力依頼の結果、清水門前町の店舗や東寺の弘法市での販売が許可され、皆で2回の販売活動を行い、清水寺と東寺と京都市に総額約8万円の利益を寄付した。今後も活動を続ける予定。</p> 
4	<p>『100年前の素材に100年後の価値を』(長岡京市立長岡第四中学校 2年他4人)</p> 	<p>解体された古民家などから出る古材を捨ててしまうのではなく、新しい物に作り変えて使うことで、廃棄物を減らすとともに、古いものの価値を長く生かすことができると考えた。NPOから民家解体時に出た古材を譲り受け、鍋敷きやフォトフレームなどを制作して販売したり、それらを作るワークショップを企画して開催。今後も、NPOの会員として活動に参加し、SNSで古材の魅力発信を続けていく予定。</p> 
5	<p>『REVIVAL 地蔵盆 in Shimogamo』(京都市立下鴨中学校 2年2人)</p> 	<p>地域から地蔵盆がなくなりつつあることから、中学校区内の小・中学生や地域の方々を対象に、中学生の手で復活させたいと企画。地元の企業に協賛依頼して必要な経費や景品などを確保。20を超える協賛団体を得て、同級生のサポート隊とともに、中学校の体育館に地蔵を借りて数珠回しといった伝統行事や交流ゲームを工夫し、真冬の地蔵盆を開催した。</p> 

## 2. 普及促進のためのイベント・セミナーなどの企画・運営

### ▶ 世界大会 Global Youth Entrepreneurship Challenge 2025

対象者: 14~18歳の高校生

競技日: 1次予選 4月12日-13日、本戦 5月17日-18日

主催: 特定非営利活動法人アントレプレナーシップ開発センター

協賛: 有限責任あずさ監査法人京都事務所、京都外国語大学、株式会社島津製作所  
株式会社GSユアサ、公益財団法人日新電機グループ社会貢献基金、ニチコン株式会社  
日東薬品工業ホールディングス株式会社、株式会社フューチャースピリッツ  
株式会社堀場製作所、村田機械株式会社

協力: 京都技術士会

本競技は、若者の科学技術やイノベーションへの興味を喚起するために、高校生を対象に実施する12時間のオンラインによる国際競技です。2025年の世界大会の1次予選には、28か国から430チーム2651名が参加し、1次選考を経て55チーム339名が最終戦に進みました。結果、シンガポールのRaffles Institutionチームが優勝しました。

#### <課題(Challenge)>

聴覚障害のある従業員を職場に迎え入れ、彼らのキャリア開発を支援するために、グローバル企業に役立つ革新的で費用対効果の高い技術ソリューションの提案

#### ■入賞チーム:

○1位(最優秀賞) Dynamoチーム (Raffles Institution、シンガポール)

○2位(優秀賞) Visionaryチーム(Taipei American School、台湾)

○特別賞 Lopatasチーム (混合チーム、ウクライナ)



Dynamo チーム (シンガポール)



Visionary チーム (台湾)



Lopatas チーム (ウクライナ)



オンライン表彰式: ボツワナの生徒

## ➤ 国内予選 Global Enterprise Challenge 2026

対象者:日本国内の高校生

競技日:2026年3月29日 8:00-20:00 (

主催:特定非営利活動法人アントレプレナーシップ開発センター

協賛:有有限責任あずさ監査法人京都事務所、京都外国語大学、株式会社島津製作所、株式会社GSユアサ、公益財団法人日新電機グループ社会貢献基金、ニチコン株式会社、日東薬品工業ホールディングス株式会社、株式会社堀場製作所、村田機械株式会社

協力:京都技術士会

後援:経済産業省近畿経済産業局、京都府、京都市、京都府教育委員会、京都市教育委員会、京都府私立中学高等学校連合、公益財団法人全国商業高等学校協会、青少年と科学の会、国立研究開発法人科学技術振興機構、独立行政法人国立高等専門学校機構

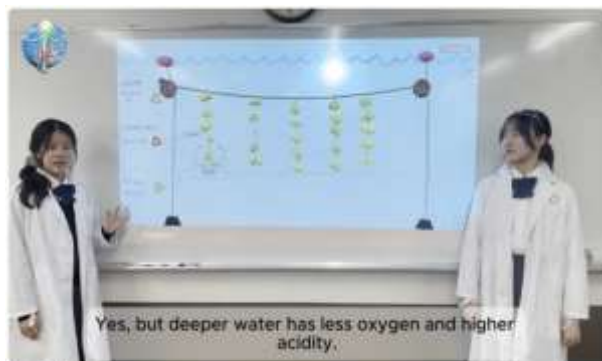
今年は、全国 54 校から 73 チームがエントリーし 427 人の高校生が参加しました。そして、3 月 15 日の事前学習会での模擬練習を経て、3 月 29 日の国内予選にてトップ 3 位のチームが選ばれ、6 月 20 日の世界大会に出場予定です。

### <課題(challenge)>

農業、畜産、漁業などの小規模生産者が、安定した事業運営を維持しながら気候変動に適応できるよう支援するビジネスを提案

### ■入賞チーム(日本代表チーム)\*学年は入賞発表の4月時点のもの

- 1位 - hgZoom チーム (広尾学園高等学校 2 年生)
- 2位 - Sustainababes チーム (渋谷教育学園渋谷高等学校 2 年生)
- 3位 - ORigIN チーム (学校法人市川学園 市川高等学校 2 年生)
- 特別賞 - Alternatives チーム (広尾学園高等学校 2 年生)



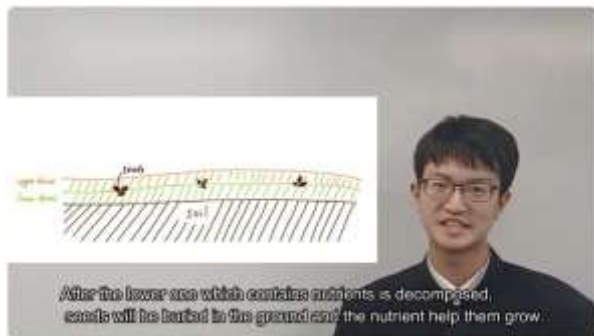
05C2026\_20 hgZoom

1位:hgZoom チームのプレゼン



05C2026\_29 04/Sustainababes

2位:Sustainababes チームのプレゼン



05C2026\_42 08/ORigIN

3位: ORigIN チームのプレゼン



05C2026\_4 Alternatives

特別賞: Alternatives チームのプレゼン

## ➤ 第 25 回 ユースエンタプライズ トレードフェア

対 象 者: 起業教育を実践している小学生～大学生 31 チーム

活 動 日: 2025 年 11 月 30 日 10:00-16:45

場 所: 京都大学百周年時計台記念館2F 国際交流ホール

主 催: ユースエンタプライズ トレードフェア実行委員会

(事務局: 特定非営利動法人アントレプレナーシップ開発センター)

協 賛: 一般社団法人イシダ三方良しの会、株式会社エスユーエス、株式会社エフタイム、  
京都信用金庫、株式会社島津製作所、株式会社 SCREEN ホールディングス

広告協賛: 株式会社井筒ハツ橋本舗、株式会社つなぐ制作所、株式会社土井志ば漬本舗

賞品協賛: 株式会社井筒ハツ橋本舗、有限会社 Ek(エク)、オムロンヘルスケア株式会社、  
株式会社つなぐ制作所、よーじやグループ

後 援: 経済産業省、厚生労働省、文部科学省、京都府、京都市、京都府教育委員会、京都市教育委員会、一般社団法人京都経済同友会、公益社団法人京都工業会、一般社団法人京都中小企業家同友会、一般社団法人京都発明協会、青少年と科学の会、京都府私立中学高等学校連合会、日本キャリア教育学会

今年は、小学生から大学生の 28 チームに過去の卒業生などの特別出展の 3 チームを加えて、31 チームがエントリーいたしました。残念ながら、インフルエンザの感染者が出て 1 チーム欠席となりましたが、残りの参加者は、例年通り、日頃の学習成果を展示販売やプレゼンテーションを通じて発表し、互いの実践から学び合っていました。

25 周年の記念事業として開催した「アントレプレナーシップはなぜ大切か?」と題した対談会では、過去のトレードフェアに出展した卒業生がメインで、4 人の登壇者のうち、高校生以外は起業しており、若い時の学びがその後のキャリアにどのような影響を与えたかなどについて知る良い機会となりました。

トレードフェア終了後のアンケートでは、出展者は本イベントが「大変学ぶことがあり役立つ活動だった」(68.8%)または「学ぶことがあり役立つ活動だった」(30.6%)と回答しており、回答者のうち 1 名を除いて学びを得る体験になったと考えていました。役立つ活動としては、「トレードフェアに出展するための様々な準備」(83%)に続いて、「他の学校の取り組みを直接見れたこと」(76%)、「新しい事業を考え形にして発表するまでのプロセスが体験できたこと」(72%)、「お客さんや審査員から意見が聞けたこと」(60%)が上位にきています。「トレードフェアに参加して一番楽しかったことや学びになったこと」についての自由記述の問いに対しても、他校の取り組みからの学びやお客さんからの助言などについてのコメントが多数見られました。「活動を通して伸びたと思う知識や力」については、「アイデアを形にする力」(77%)、「新しい事業をつくりだす(会社を立ち上げて商品をお客さんに届ける)過程についての理解」(75%)、「他の人と一緒に協力して働く力」(71%)がトップ 3 となっています。また、このような活動は、「将来自分の職業を考えたり、仕事を通じて社会に貢献できる力をつけるのに役立つ」と、ほぼ全員の出展者が考えていました。一方で、「トレードフェアに参加して一番大変だったこと・苦労したこと」についての自由記述には、やる気の温度差があるチームメンバーと意見を合わせて共に働くことの難しさ、協力企業を探す大変さ、1 年という短い期間で事業を形にする大変さなどについてのコメントが多くありました。いずれも、新しい事業を立ち上げる時に誰もが経験する苦労ではないでしょうか。このような実践を通じて、将来ぜひ起業してみたい人は 26%、機会があれば挑戦したい人は 28%と、合わせても 54%でした。他国と比較するとまだまだ低い数字ですが、対談会で話をしてくれた卒業生たちのように、このような実践的な学習を通じて、新しい価値を生み出すプロセスを理解していることが、今後やりたいことができた時や困った人を支援する際に行動できるかどうかを左右することになるでしょう。出展校の指導者の方々からも、学習活動の中にトレードフェアという発表や事業評価の機会があることの重要性について言及がありました。主催者としては、過去 25 年の活動を振り返りつつ、トレードフェアが若者のアントレプレナーシップを培うきっかけになり、彼らがより良い社会づくりのために今後も引き続き活躍してくれることを期待したいと思います。



## <入賞チームの紹介>

### ●京都府知事賞（社会貢献度が最も高かったチームへ）

賞品：使用済み竹割りばしで作ったスマートフォンスタンド 4 セット 賞品提供：京都府

### ○受賞者『OTABE』（共愛学園前橋国際大学）

-群馬県太田市の特産物である「やまといも」を使用したスイーツの開発。認知度の低い伝統的な食材「やまといも」を、生チョコと組み合わせることで若者に広めたいと提案。粘り気ある絶妙の組み合わせが評価されました。



### ●京都中小企業家同友会賞（ビジネスモデルに新規性や独自性の高かったチームへ）

賞品：京友禅手染め絹のスマホ拭き「おふきmini」15セット

賞品提供：一般社団法人京都中小企業家同友会

### ○受賞者『Motto+』（名古屋市立西陵高等学校）

-プラスチック削減を目的に、マイボトル用の“ドリンクバー式自動販売機”を考案。学校内での設置に向けた活動が評価されました。



### ●青少年と科学の会賞（ものづくりにおいて新しい発想があったチームへ）

賞品：紙製パンケース（大）7個 賞品提供：青少年と科学の会

### ○受賞者『セカンドライフ・フラワーズ』（愛知学院大学）

-ロスフラワー削減とその認知度向上を目的に、廃棄予定の花を押し花にするなど、ワークショップや小物販売を通じて地域の方々に届ける事業。新たな花の使い道が評価されました。



●ジュエリープティ賞(キラッと光るセンスや美的感覚・ストーリー性があったチームへ)

賞品:アマゾン商品券 5万円 賞品提供:株式会社つなぐ制作所『小さな工房 JewelryPetit』

○受賞者:『RE:style』(学習院大学)

「高齢者の社会参加支援」および「美・装いを通じたケア」を目的として、ファッションショーを開催。お笑いコーナーを設けたり、アクセサリーや古着をリユースしたコサージュ等の装飾小物を学生が作成して活用するなどの工夫した取り組みが評価されました。



●エクノobel賞(ユニークな方法で日本文化を発信していたチームへ)

賞品:図書券 3万円 賞品提供:有限会社 Ek(エク)

○受賞者:『鶴まる』(共愛学園前橋国際大学)

-イ群馬県の伝統文化である「高崎だるま」を基軸とした商品開発。従来の「飾る」用途にとどまらず、手のひらサイズの携帯できるだるまやキーホルダー化にすることで現代の若い世代が欲しくなるような商品へ改良を加えました。ユニークな方法での日本文化発信として評価されました。



●特別賞(上記賞に該当しなかったが優れた取組を行ったチームへ)

賞品:おめでとう三笠 50個 賞品提供:株式会社井筒八ッ橋本舗

○受賞者:『NISSI カンパニー』(亀岡市立西別院小学校)

-自然を生かした野菜、米作り、古着や古布を使った織物作りを保護者や地域の方々と一緒に取り組んできました。小学生1年生～6年生までの学校全体の取り組みが評価されました。



●特別賞(上記賞に該当しなかったが優れた取組を行ったチームへ)

賞品:おめでとう三笠 50 個 賞品提供:株式会社井筒八ッ橋本舗

○受賞者:『がんとぶ。』(共愛学園前橋国際大学)

昨年度に続き、群馬県の伝統工芸品である「伊勢崎銘仙」を若い世代に広め、次の世代へ繋いでいくことを目的とした事業。子ども向けの体験型ワークショップや雑貨のガチャガチャ販売やオリジナルステッカーなど、新しい取り組みが評価されました。



●スチューデント賞(発表者が選ぶ一番よかったチーム)

賞品:よーじやオリジナルギフト 10 セット 賞品提供:よーじやグループ

○受賞者:『Bijou』(共愛学園前橋国際大学)

-授業や試験勉強、レポート作成などの学習の合間に手軽に食べられる間食として、地域の農産物である米粉を活用した商品を開発。消化に優しく血糖値の急上昇を抑える商品で、健康にも配慮があり、手軽な価格で参加生徒の票を集めました。



●ベストショップ賞(一般来場者が選ぶ一番よかったチーム)

賞品:電動歯ブラシ 10 本 賞品提供:オムロンヘルスケア株式会社

○受賞者:『ジュニアリーダーズクラブ for Social Action』

-昨年度発表した「京の不思議地名かるた」が商品化されて販売。障害について理解を測る動画・絵本の作成や4年続けている「ハロウィンチャレンジ」の清掃活動などが幅広く評価されて、一般来場者から一番多くの投票を得ました。



### 3. 実践を後押しするための教材・教育プログラムの提供や指導者育成

#### ➤ Youth Enterprise <http://www.youthenterprise.jp/>

小学生～大学生達が、学年段階を超えて、自分達の起業教育の活動を発信しながら、互いに学びあい、また、彼らの支援者が応援者としてプロジェクトの進捗状況を閲覧し応援できるようになっています。

トレードフェアやKyotoアントレプレナーチャレンジでは、このサイトでの活動発信が表彰のための事前審査の対象となっており、2025年度は33のプロジェクトが登録し、取り組み内容を発信しました。



#### ➤ アントレプレナーシップ教育の指導者養成

##### <インストラクター養成講座>

アントレプレナーシップを推進する教育指導者の育成の研修講座を開催しました。基礎編はオンラインで、実践編は京都にて実際の活動に参加しての研修となります。小中学校の先生に加え、大学教員や行政職員、これからアントレプレナーシップ教育事業をしたいという社会人の方など、多様な職業の方が受講されています。

- 秋講座:2025/9/4,18, 10/2,16, 30 全5回 木曜 18:30-19:45
- 冬講座:2026/2/12, 26, 3/12, 26, 4/9 全5回 木曜 18:30-19:45

##### <学校からの依頼>

- 2025-8-29:多摩市立青陵中学校:教職員向け「アントレプレナーシップ人材育成研修」

##### <研究協力>

- 2025-12-17:徳島県教育委員会:小・中学校でのアントレプレナーシップ教育プログラムについてのヒアリング
- 2025-3-18:名古屋市立大学高等教育院主催  
「探究学習で培うアントレプレナーシップ-先駆者と共に考えるこれからの教育」と題して現場の指導者の方々と意見交換

#### ➤ 探究時代ののアントレプレナーシップ教育【書籍出版】



現在の学習指導要領では、「社会に開かれた教育課程」が掲げられ、探究的な学びが奨励されています。これを受けて、高校を中心に課題解決型のプロジェクトを通じてアントレプレナーシップを育成する動きが積極的に始まっています。また、小中学校での導入を検討する学校も増えてきたことから、当センターの30年近い事業活動の中で得られた知識や効果的な実践などをまとめた書籍を11月に出版いたしました。

価格 2,000 円(税別)

申込フォーム→



## 4. 事業理解を進めるための調査・研究・情報発信

### ➤ HP、ブログ、Facebook やメールマガジンでの情報発信

HP では、随時活動情報や実践の報告を発信するとともに、毎月 25 日には約 6,000 人にメールマガジンを配信しています。

### <メディア掲載等>

- ・ 2026.3.12:京都新聞「アレルギー配慮店 児童がマップ 半年かけ取材 14 店掲載」
- ・ 2026.3.4:京都新聞「プリンでどうぞ亀岡牛乳「かめまる」モチーフ3児童が開発」
- ・ 2026.3.3:京都新聞「五重塔るね〜ど」完売 ポテト串 東寺で販売、2 時間で」
- ・ 2026.3.1:KBS 京都ニュース「小・中学生が事業アイデアと成果を発表」
- ・ 2026.2.25:京都新聞「生徒 2 人、地蔵盆を「復活」 左京・下鴨中 住民と協力、子ら集め」
- ・ 2026.2.19:京都新聞「五重塔るね〜ど」ポテト 京の中学生 5 人販売 文化財保護に一役」
- ・ 2026.2.12:京都新聞「お役に立てれば、社員一同大喜びです！」京都の小学生「起業家」ら、能登半島地震の被災地に寄付」
- ・ 2026.1.26:読賣新聞「販売会収益 文化財保護に 中学生発案 清水寺、東寺寄付へ」
- ・ 2025.12.10:京都新聞「古材活用し製品 魅力発信 長岡京の小中生 4 人 販売にも挑戦」
- ・ 2025.12.1:京都新聞「社会課題解決や地域活性化へ 児童や学生がアイデア 京大で発表会」
- ・ 2025.10.7:京都新聞「京の難読地名かるたに-雲母坂・不明門通・釜座通…何て読む？」
- ・ 2025.3.17:京都新聞「より良い社会 子らが一石 アントレプレナー起業アイデア発表会」
- ・ 2025.3.17:毎日新聞「すぐきの魅力伝えたい！形に-小中生「アントレプレナー」発表 大賞に藤井さん、倉田さん(中 2) / 京都」
- ・ 2025.3.17:読賣新聞「地域課題解決へ-小中生アイデア 下京で発表会」
- ・ 2025.3.16:KBS 京都 京都 Days「京都府内の小中学生がわくわくの未来を発表 アントレプレナー・チャレンジ」
- ・ 2025.2.22:京都新聞「すぐきこ味な活動-京の三大漬物もっと食べて！」
- ・ 2025.2.21:京都新聞「京都環境賞」の大賞に京都市立中学の 2 年生 ミミズ使ったコンポストの普及活動」(ジュニアリーダーズクラブのメンバーで、2023 年度の第 4 回 Kyoto アントレプレナーチャレンジにてアントレプレナー大賞の受賞者です)
- ・ 2025.1.19:洛タイ新報「お茶の実で飾り物を作ろう-25 日に宇治で-」
- ・ 2025.1.14:京都新聞「駄菓子屋中学生が復活 地元店へ移転、「集える場所を」



「KBS 京都放送で撮影された成果発表会」

## 活動を支えてくださった方々

## Supporter

## &lt;助成・協賛団体&gt;

一般社団法人 <b>白瑤社</b>	<b>KPMG</b>
<b>ISHIDA</b>	<b>SUS</b>
エフタイム <b>ftime</b>	学校法人 <b>京都外国語大学</b> Kyoto University of Foreign Studies
<b>コミュニティ・バンク京信</b>	一般財団法人 <b>三洋化成社会貢献財団</b> SANYO CHEMICAL Foundation for Social Contribution
<b>SHIMADZU</b> Excellence in Science	<b>GS YUASA</b>
<b>SCREEN</b>	株式会社 <b>TEITUL</b>
<b>日新電機グループ</b> 社会貢献基金	<b>nichicon</b>
<b>日東薬品工業HDグループ</b>	新しい生きるを、創る。 <b>日本新薬</b>
<b>FUTURE SPIRITS</b>	<b>HORIBA</b> Explore the future
<b>muratec</b>	

## &lt;その他の協賛・協力団体&gt;

株式会社井筒八ツ橋本舗、有限会社 Ek(エク)、オムロンヘルスケア株式会社、京都技術士会、一般社団法人京都経済同友会、公益社団法人京都工業会、一般社団法人京都中小企業家同友会、青少年と科学の会、株式会社つなぐ制作所、株式会社土井志ば漬本舗、株式会社 Hibana、有限会社森三、よーじやグループ

## &lt;会員・賛助会員&gt;

青山 和典、石塚 実、奥上 正一、黒澤 敏朗、酒井 朋久、佐竹 宏枝、澤田 有紀、首藤 晴美、鈴木 三朗、谷孝 大、角田 隆太郎、中澤 弘、原 克彦、松田 直子、村木 洋介、横山 強、山本 桂子、矢内 篤、下村 委津子、田中 絵里加、中根 敏雄、西田 喜久夫、野田 幸平、濱本 武志、松田 稔樹、森 義晴、山崎 真嗣

## 2025 年度 決算報告

## Financial Report

## 令和 7(2025)年度「特定非営利活動に係る事業」活動計算書

自 令和 7 年 4 月 1 日 至 令和 8 年 3 月 31 日

(単位:円)

科目	金額	
I 経常収益		
1. 受取会費		219,000
2. 受取寄附金		2,375,800
3. 受取助成金・補助金		4,249,160
4. 事業収益		
教育教材開発・導入支援事業収益	1,172,011	
普及促進事業収益	2,856,161	
研修・講座事業収益	1,081,720	
その他収入	142,860	5,252,752
5. その他収益		
受取利益	12,491	12,491
経常収益計		12,109,203
II 経常費用		
1. 事業費		
(1) 人件費	8,420,521	
(2) その他経費	3,517,262	
事業費計		11,937,783
2. 管理費		
(1) 人件費	356,354	
(2) その他経費	303,913	
管理費計		660,267
経常費用計		12,598,050
当期経常増減額		-488,847
III 経常外収益		0
IV 経常外費用		0
経常外費用計		
税引前当期正味財産増減額		-488,847
法人税、住民税及び事業税		70,000
当期正味財産増減額		-558,847
前期繰越正味財産額		15,263,669
次期繰越正味財産額		14,704,822

## 令和 7(2025)年度「特定非営利活動に係る事業」貸借対照表

令和 8 年 3 月 31 日現在

(単位:円)

科 目	金 額	
I 資産の部		
1 流動資産		
現金	810,536	
普通預金	21,051,127	
前払費用	111,480	
未収入金	80,000	
流動資産合計		22,053,143
2 固定資産		
保証金(敷金)	500,000	
固定資産合計		500,000
資産合計		22,553,143
II 負債の部		
1 流動負債		
未払金	779,511	
預り金	68,810	
流動負債合計		848,321
2 固定負債		
退職給与引当金	7,000,000	
固定負債合計		7,000,000
負債合計		7,848,321
III 正味財産の部		
前期繰越正味財産		15,263,669
当期正味財産増加額		
当期収支差額	(558,847)	(558,847)
正味財産合計		14,704,822
負債及び正味財産合計		22,553,143

## 令和 7(2025)年度「特定非営利活動に係る事業」財産目録

令和 8 年 3 月 31 日現在

(単位:円)

科 目 ・ 摘 要	金 額		
I 資産の部			
1 流動資産			
現金 現金手元有高	810,536		
普通預金 京都銀行西五条企業会館支店	3,389,555		
京都中央信用金庫西大路五条支店	1,035,143		
ゆうちょ銀行(当座預金)	16,626,429		
前払費用	111,480		
未収入金	80,000		
流動資産合計		22,053,143	
2 固定資産			
保証金(船越メディカルビル事務所保証金)	500,000		
京都市中京区両替町通丸太町南入西方寺町160-2 船越メディカルビル 3F			
固定資産合計		500,000	
資産合計			22,553,143
II 負債の部			
1 流動負債			
未払金	779,511		
預り金	68,810		
流動負債合計		848,321	
2 固定負債			
退職給与引当金	7,000,000		
固定負債合計		7,000,000	
負債合計			7,848,321
正味財産合計			14,704,822